

令和3年度

きのくにコミュニティスクールの推進に係る研修会（紀南会場）まとめ

日時：令和3年11月2日（火）13:10～16:30 参加者：会場 38名

場所：田辺スポーツパーク オンライン 15名

テーマ：「できるときに！できることを！できるだけ！」

～実際の活動から、コミュニティ・スクールの可能性を探る～

講演「コミュニティ・スクールを土台とした南部町の教育」

文部科学省CSマイスター 鳥取県南部町教育委員会教育長 福田 範史 氏

コミスクは、子供たちが大人になった時に自分たちで町のことを考えられる人に育つように、地域総がかりで全ての大人が関わる取組。地域の活性化や協働について、本当のところはどうなのかと問うところから始まる。



コミスク導入やパンフレット作成自体が目的ではない。

学校

「社会に開かれた教育課程」とは、学校でどんなことをやって、どうやって学ぶのかを社会に開くということ。学校は、どうすれば開くことができるのか。

子供

情報端末1つあれば、誰とも集わなくても遊べる世の中。今の子供たちは、本当に育ちやすい世の中に生きているといえるのか。

地域

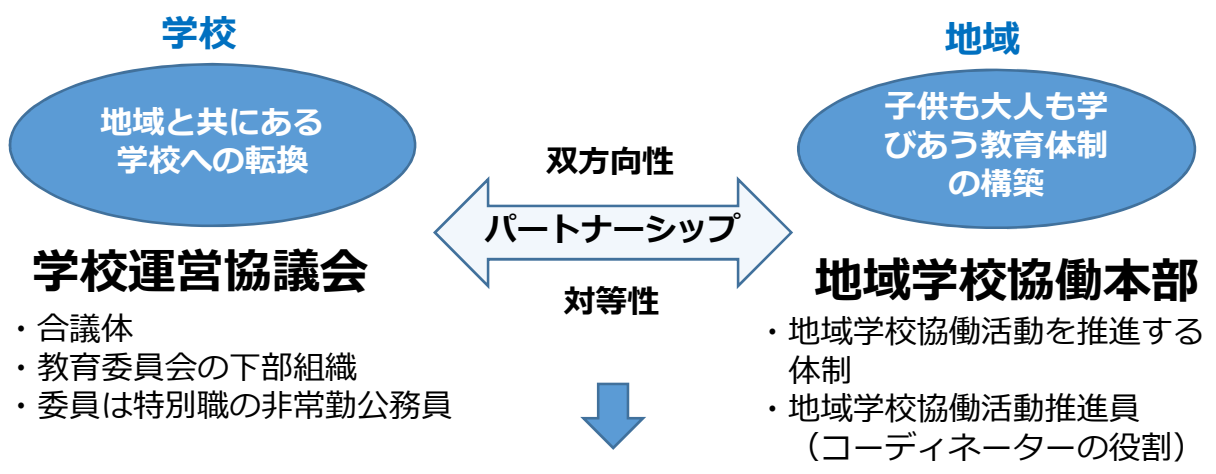
地域の教育力が低下していると言われていたが、人材はたくさんある。情報が届いていない。出番と持ち場のマッチングはうまくできているのか。

学校と地域の連携・協働が求められている

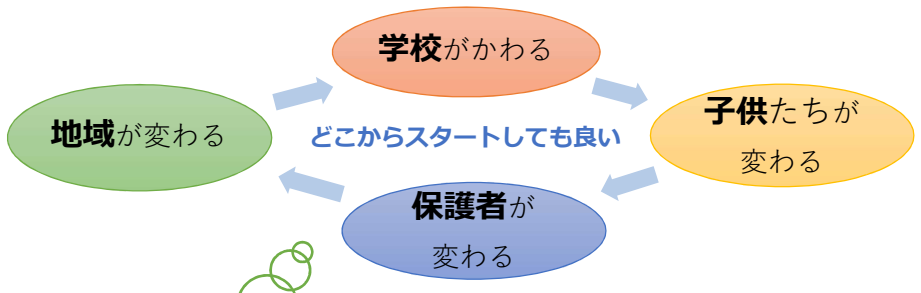
**現在の子供たちの夢**（ユーチューバー、プロeスポーツ選手等）  
 →子供と大人の価値観が違ってきている。  
 →学校の先生だけで教えることが難しい。

**市町村立の義務教育学校とは**、住民が、税金によって自分の町の未来を託すために子供たちの教育の場として建てたもの。  
 →学校だけで閉じているものではない。

「支援」から「連携」、そして「協働」へ



一緒に汗をかく活動を通して大人が変容する。  
 →「協働」につながる。



学校と地域による協働の基盤が作られていますか？  
 H26文部科学省委託事業「学校の総合マネジメント力の強化に関する調査研究」  
 チェックシート

学校運営基本方針への「承認」とは？

OK → Let's 「一緒にやりましょう！」

## 南部町の取り組み

「きっと誰かがしてくれるだろう」  
→「住民主体のまちづくり」へ

### 南部町「地域協働学校」(コミュニティ・スクール)

①地域とともに歩む学校教育 ②「期待される」学校 ③「地方創生」につなげる

**導入時期 (H18～)** 小・中学校区ごとに順次導入、部会制  
部会の例 GTA(Grandparents Teachers Association)  
→孫世代と挨拶できる喜び×野菜作り等の知恵を学校で生かす

**停滞期 (導入～3年目)** CSの理解、校内研究、課題の見出し等への戸惑い

**転換期 (H24～)**

- ・ビジョン(グランドデザイン)づくりとCS交流会のスタート
- ・学校組織マネジメントとCSとの連動
- ・学校の中が見える→信頼づくりへ

**確信期 (H26～28)**

- ・教職員・CSと生徒が『本音の対話』
- ・伸びの共有は次への意欲
- ・小学校との一貫への動き～中学校区学校運営協議会～
- ・活動をより協働的内容へ

**発展期 (H29～)** 南部町オリジナルの学習「まち未来科」

- ・10年間一貫カリキュラム(保育所年長～中学校3年)
- ・身に付けたい4つの力
- ①ふるさと愛着力②将来設計力③社会参画力④人間関係調整力

社会教育のフィールド

- ・高校生サークル「With you 翼」
- ・新☆青年団「へんとづくり」(18～39歳くらいまでの青年)



## 「ふるさと」の歌詞に寄せて

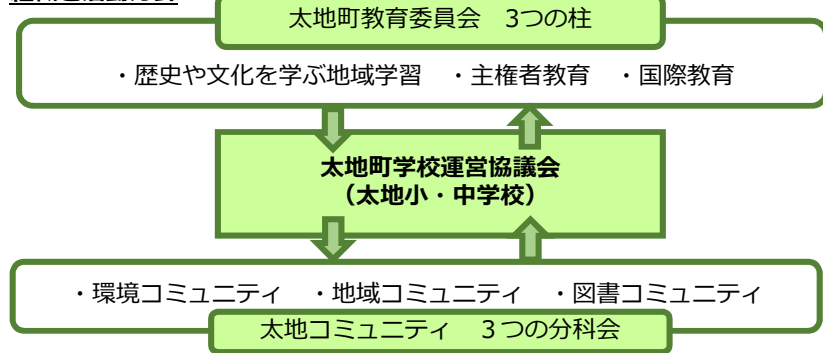


子供たちが、ふるさとに心を寄せ、  
「志を果たしに」帰って来る地域でありたい。  
和歌山という地で、子供たちが自分の夢を実現できる。  
そんな地域・社会づくりをしていこう。  
自分をすり減らすのではなく、自分自身がさらに豊かになれるような  
**コミュニティ・スクール**を作っていこう。

## 実践発表

太地町学校運営協議会 委員  
太地町くじらの博物館 学芸員 中江 環 氏

### 組織と活動方針



### 太地町学校運営協議会の特徴

- ・太地町教育委員会の基本方針に学校運営協議会が上手く機能している。
- ・「くじら博物館」を地域の宝と捉え、地域コミュニティの中に位置づけて「地域に開かれた博物館」としての活動を行っている。
- ・子供たちの表現力を育成し、視野を広げ、国際的感覚を養うために、白馬村や姉妹都市ブルームとの交流、移民学習を太地町コミュニティ活動の一環として継続して取り組んでいる。

### 地域コミュニティにおける「くじら学習」を14年間継続して

- ・クジラや海の生き物についての興味関心が広がった。
- ・放課後に博物館にくる子が増え、博物館が新たな子供の居場所となった。
- ・「学芸員になりたい。」という夢を持つ子が出てきた。
- ・町で子供から声をかけられるようになった。

### 今後の課題

小学校の学びを中学校へとつなげるシステムの構築。小中連携をさらに進めたい。

### パネルディスカッション

パネリスト 中江 環氏 上田 さとみ氏 上羽 寛氏 森 博司氏  
コーディネーター 岡本 公博氏

#### ○実践発表を受けて

- ・コミスクのシステムがあったからこそ、学校と地域の博物館が深く関わりを持ちながら、顔の見える関係の中で双方向性を持った活動につながった。
- ・太地町のように、地域の中にみんなが共通して取り組める柱があると、コミスクは進めていきやすい。

#### ○育てたい子供像について

- ・コミスクの基本は、人づくり。大人も子供も共に育つという「共育コミュニティ」が基盤にある。
- ・学校の課題解決を公民館活動で取り組んだ結果、地域の人と子供が顔見知りになって挨拶を交わすよ

うになり、子供たちのコミュニケーション力がつき、お互いに学びあう姿が見られるようになった。

#### ○きのくにコミュニティスクールで大切にしたいこと

- ・地域は学校をどう見ているのかというスクール・コミュニティの視点も大切。
- ・紀南の大家族を育てるという意味で、多くの人がサポーターとなってほしい。
- ・学校・家庭・地域の課題を共有する中で、地域にしかできないことも考えたい。
- ・自分自身が楽しみながら、お互いの負担にならないように進めたい。
- ・正解を求めず、自由に考えて発言してみることがコミスクでは大切。
- ・地域の特色や文化を継承するための話し合いの場、学校と地域が協働学習をするための学びの場として学校運営協議会を捉えることができる。



## 藤田 直子氏

「共有」：学校運営協議会が学校、家庭、地域をつなぐパイプ役となり、それぞれの思い、学校（校長）の思いを共にする。

「協働」：共有内容を自分事と捉え、主体的に考えて実現する。  
「OKではなくLet'」（福田教育長の講演より）

「共有」したことを「協働」して実現していく。その道筋でできる工夫として、「活動部会の設定」「共育コミュニティとの両輪の動きを作る」等がある。

地域で育ち、地域を担っていく子供たちと若者世代。貸し借りではない必然性のある取組として、ある中学校と高等学校のコミスクの取組を紹介した。

これからも「共有」「協働」を合言葉に、可能性を広げ、実現する動きを作っていただきたい。



## 福田 範史氏

コミュニティ・スクールの一番は、自分の学校や地域の**課題を洗い出す**こと。次に、課題を共有して、その課題解決のために**誰がどうやって汗をかくのかをしっかりと熟議**すること。そして「**子供のために作っている**」という一点が、ぶれていないこと。

高等学校や特別支援学校の「**地域**」の捉え方は**無限大**。学校の半径500mから、市町村、地方、県全体、あるいは全国を対象と考えても良い。**高校生が考える地域とは何か**を議論することから始めても良いだろう。

子供たちは、たまたま9年間だけ学校という籍にあり、ある期間旅に出ているだけである。地域の方は、手を放しても目を離してもいけない。学校に任せきりではなく、今のうちからしっかりと**学校に関わっていただきたい**。

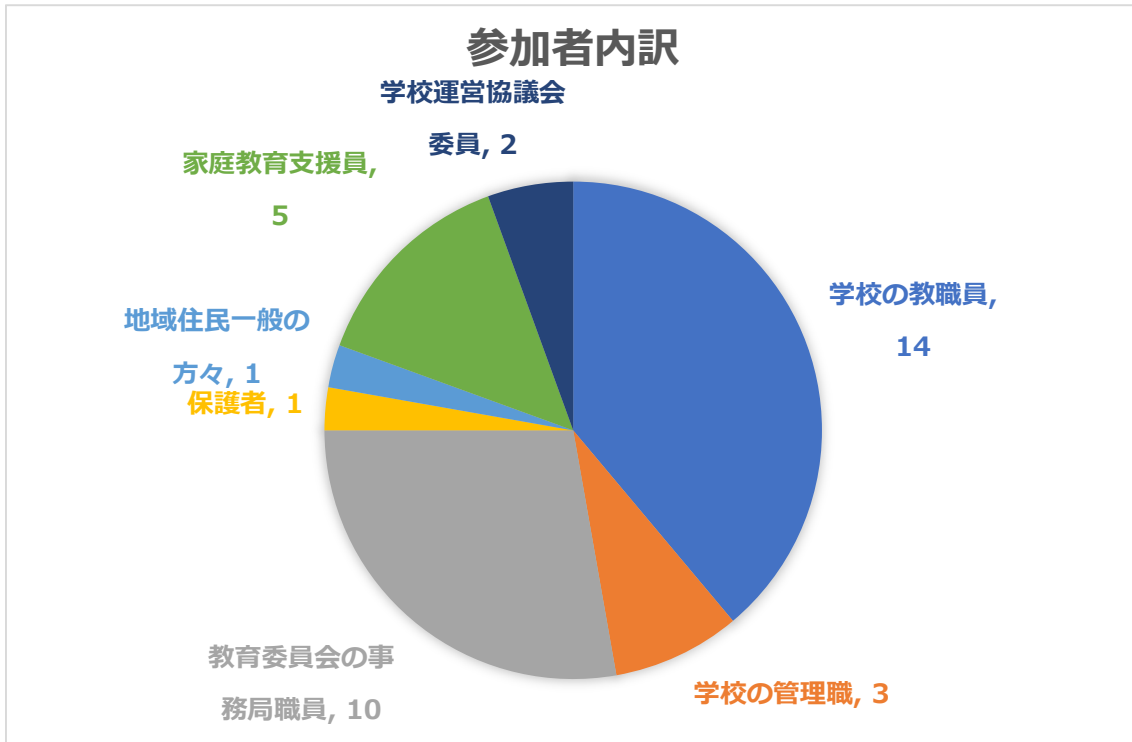
学校関係者は、**地域の方々の思いやスキル**を見くびってはいけない。いろんなところに出番を待っておられる方がいる。**どうマッチングさせるか**が必要である。

コミュニティ・スクールの努力義務は、教育委員会に係っている。教育委員会には**覚悟が必要**。県は市町村への伴走支援と設置義務。また、市町村にも設置義務がある。これからも、これら2つの**伴走支援と義務**が和歌山県として今以上にできていくことに期待している。



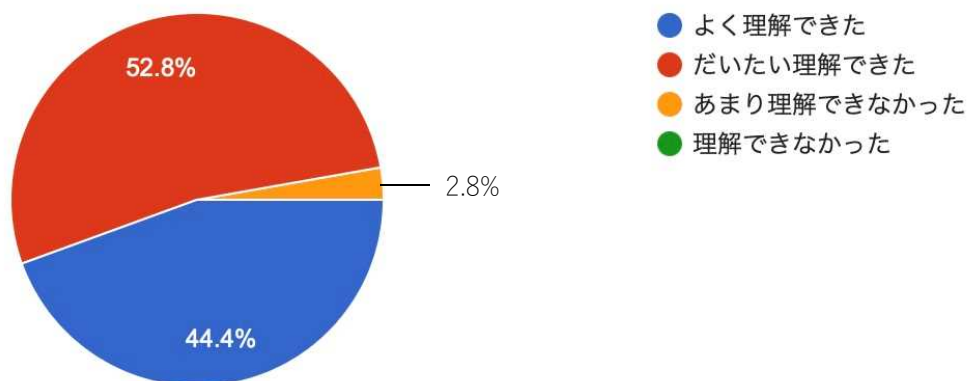
## 令和3年度きのくにコミュニティスクールの推進に係る研修会（紀南会場）

### 1. 参加者内訳

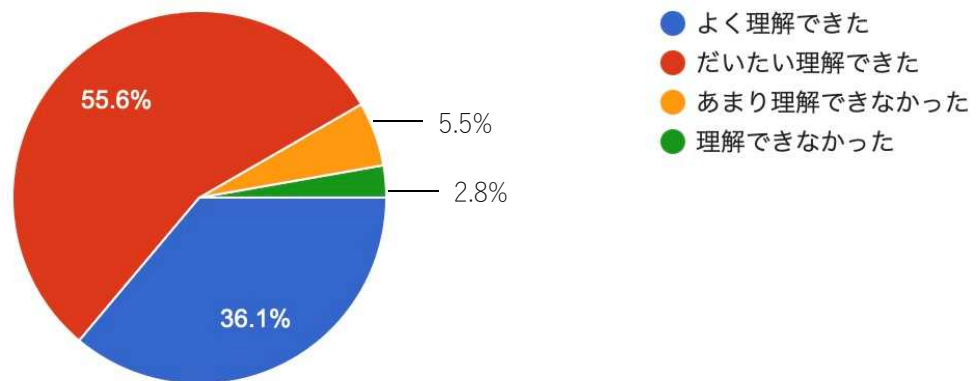


### 2. 本日の研修会に参加して、もっとも近いもの

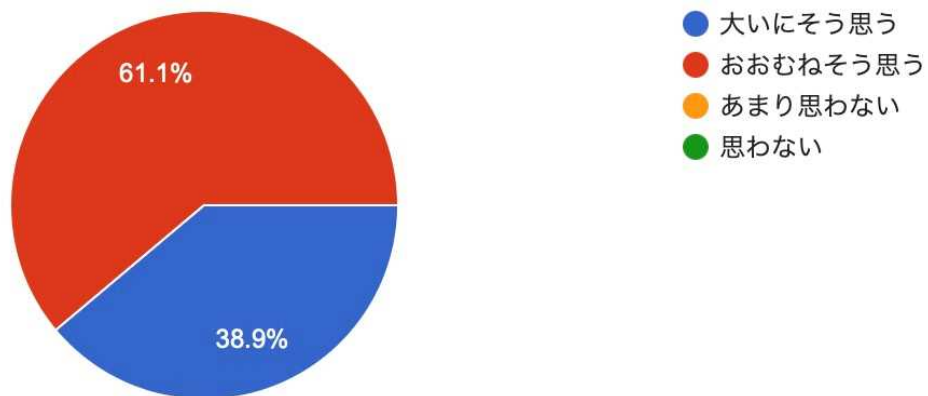
(1) 学校運営協議会制度について理解できた。



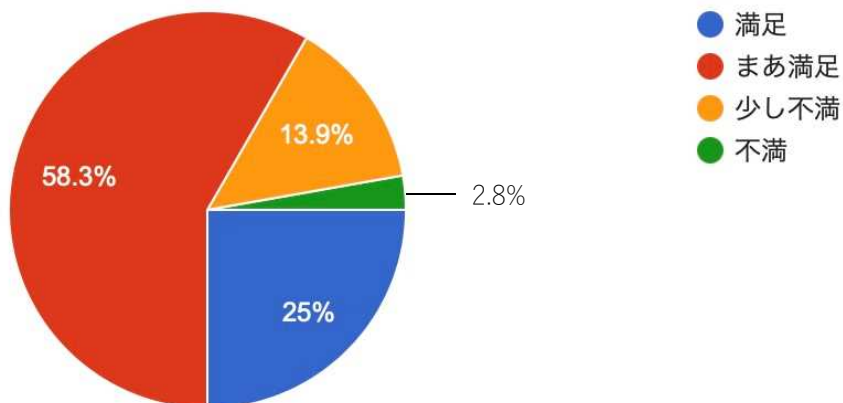
(2) 地域学校協働活動、地域学校協働本部について理解できた。



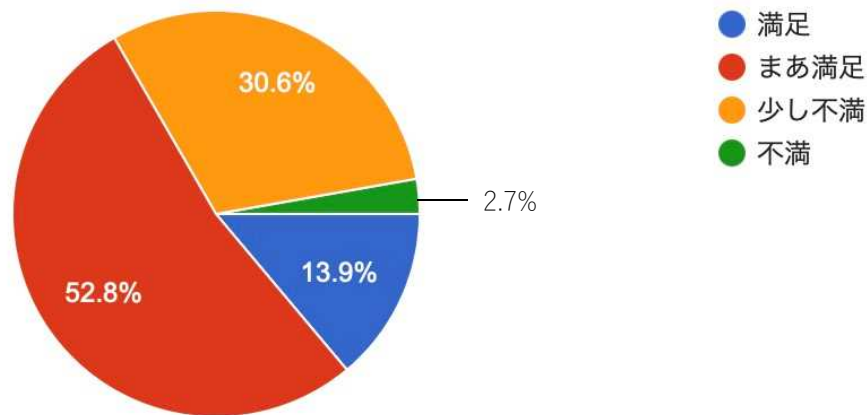
(3) 講演等を聞いて、コミュニティ・スクール、地域学校協働活動を一層推進しようと思う。



(4) 実践発表、パネルディスカッションの時間配分、内容。



### (5) 熟議の時間配分、内容。



### 3. 皆様の御意見（抜粋）

- ・くじら学習のお話をお聞きして、学習（学校）と地域のつながりがとてもよく分かり、すばらしいと思いました。子供達もきっと「くじらの町」に生まれた事を、大人になっても誇りに思い、自慢に、自信になると思いました。大変ありがとうございました。
- ・福田先生の講演は大変勉強になりました。後半、駆け足でついていけないところがあったのが残念でした。あと30分くらい長くても飽きることなく聞かせていただける内容でしたので、もったいなく感じました。部会について発表できず申し訳ありません。今日の話から熊本地震の時の様子が印象に残り、防災部会はどうかと考えました。あとは、校則について一緒に考える会とか、どうでしょうか。地域の方の声も聞きながら今の時代にあった校則を教師、生徒、家庭、地域で考えることはできないでしょうか。このような事例があれば知りたいです。本日はありがとうございました。
- ・リモートでの参加は負担が少なく参加しやすいです。ただビデオを入れて受けた方がより参加意識が高まるかと思います。
- ・福田さんの話を聞いて、これまでよくできていた部分と、足りなかった部分がよく見えたと思います。学校と地域で貸し借りになっているところが、結構あるように感じ、同じ目標を持つということをもう一度考えたいと思います。
- ・必要性は十分理解できるのだが、さて自分のところに振り返って考えると、どこからできるのだろうかという熟考の必要性がある。それと共に「まあ、とにかく始めてみるか」といったような「えい！やあ！」的な面も必要であるだろうが…。そこら辺のさ



じ加減が…。子供達の非認知能力の育成（自ら何かに没頭する力の育成）といった点でも、このコミスクを生かしていきたい。その点で、「くじら」の発表は参考になりました。

- ・熟議の時間がもう少し必要かなと思いました。でも楽しかったです。
- ・とても分かりやすく教えていただき、勉強になりました。ありがとうございました。
- ・熟議の時間を多くした方が良いと考えます。
- ・福田先生のお話が大変参考になりました。自分達の学校のコミュニティ・スクールをより発展させていけるよう職員と今回の研修内容を共有していきたいと思います。ありがとうございました。
- ・コミスク先進例を拝聴でき、とても参考になりました。私が申し上げるのもどうかと思いますが、本校の課題も見えてきました。まず教職員で話し合うことの大切さを知りました。もう少しゆっくりお話が聞きたかったです。
- ・人と人がつながることが、まず必要であると考えています。顔の見える関係、winwinの関係、互いの負担にならない関係を心がけています。中江さんと同じような考えを持っていると感じました。学校運営協議会に材料を提供し、熟議し、協働し、さらに材料をいいものにしてながら運営協議会と関係を深めて、地域と連携していきたいと考えています。本日は多くの話を聞かせていただき、大変参考になりました。とにかく動き出すことが大切であるように感じました。
- ・パネルディスカッションは時間が短すぎました。なかなかコミスクの話を伺う機会がないので、いい機会となりました。あまりこのような機会が今までなかったので、日々の学校生活の中でも地域のことを考えていこうと思いました。
- ・「あったらいいな！こんな部会」ではなく、「各学校・地域の課題に沿った連携方法」などのタイトルで考えても面白かったかもしれないですね。もう少し話し合う時間が欲しかったです。
- ・熟議に関しては、具体的な話を進めるには時間不足。部会の名前を決めるだけでなく、それを実行するために考えられる問題点、解決方法などを考える時間がほしかったです。
- ・図書・読書部会 学習支援部会 放課後見守り部会 地域交流部会などがあればいいと思いました。熟議の時のオンラインでの参加の仕方がわかりにくく、参加できずにすみませんでした。
- ・コーディネーターの方がいれば、学校と地域を結ぶ人となり、より共育コミュニティが推進されると感じました。

- ・福田様の南部町で取り組まれているビジョンづくりとCS交流会等のポイントや中江様から報告があった太地町のコミュニティの取組（14年間）がとても興味深く、とても参考になりました。太地町が取り組んでいる小1～小6のプログラムをもっと詳しく知りたいと思いました。各市町村にすばらしいコミュニティがある一方（地域の伝統・文化等）、お互いの地域でさらに学び合いや地域の良さを伝え合う場（広報はありますが）があれば、さらに良いように思えました。地域地域で良いコミュニティがあるものの、小さい小さいコミュニティで終わっているのが残念です。今後の和歌山のことを考えていく上で、「地域→市町村→郡→紀南・紀北」くらいの枠で考えていけたらいいように思えました。

#### 4. 熟議で出された学校運営協議会の活動部会

- ・やりたいことをどう見つけるか部会
- ・マッチング部会
- ・地域の人ともっと仲良くなる部会
- ・防災のために協力できる部会
- ・未来部会
- ・じまん部会
- ・地域体験部会
- ・授業サポート部会
- ・畑・園芸部会
- ・外国語部会
- ・子ども部会
- ・地域を知る部会